

生産資材のコスト低減をめざし 特許切れ(ジェネリック)農薬を開発・普及へ

JA全農とメーカーが日本ジェネリック農薬協議会設立!

農家の所得向上や農業生産の拡大へ、生産資材のコスト削減が喫緊の課題となっています。

そこで、JA全農は農薬メーカー4社とともに「日本ジェネリック農薬協議会」を昨年12月に設立。特許切れとなった成分を使う低価格なジェネリック農薬の適切かつ速やかな導入・普

及を、国や業界に強く働きかけていきます。

JA全農は、これまでジェネリック農薬として「ペンコゼブ」や「ジェイエース」を開発し、オリジナル農薬の価格引下げを実現してきました。一方、今年4月以降、国は従来の制度を見直し、欧米同様の仕組みを導入することで、ジェネリック農薬の規制緩和を実施する予定です。

JA全農は、現在5%程度にとどまっている日本のジェネリック農薬の普及率を、将来的には世界の農薬市場と同水準の30%まで引き上げることを目標とし、JA全農自らも年内に複数のジェネリック農薬の開発に着手し、ジェネリック農薬の普及を通じ農業者のコスト低減と日本の農業の発展につなげます。



JA全農と農薬メーカー4社で設立した日本ジェネリック農薬協議会

全農が進める「たくましい農業づくり」をシリーズで紹介します。